

平成25年度 周南市友好親善訪問団報告書 (デルフザイル市)



周 南 市



あいさつ

周南市では、姉妹都市交流事業の一環として、友好親善と相互理解を深めるとともに、国際感覚の豊かな青少年を育成することを目的に、中高生を姉妹都市へ派遣する事業を行っております。平成二十五年度は、私や周南市議会議長をはじめとする公式訪問団とともに、中高生による友好親善訪問団がオランダのデルフザイル市を訪問しました。

デルフザイル市には、平成二年の姉妹都市提携以来、十一回目の訪問となりました。団員達は、訪問先でホームステイをしながら、デルフザイル市の人々とさまざまな活動を通して、オランダの伝統や

文化を吸収するとともに、日本の伝統文化を伝えるなどし、積極的な交流に努めてこられました。この報告書は、こうした団員一人ひとりのかけがえのない貴重な体験や感動をありのままに綴ったものです。

このたび団員として参加された皆さんには、今回の体験で得たことを学校や地域の多くの人たちに紹介していただくとともに、今後の本市の国際交流活動にも積極的に参加、協力され、将来、国際化社会の中で活躍される人になっていただきますよう期待いたしております。

終わりに、本事業の実施にあたり、デルフザイル市役所や実際に日々の活動プログラムを計画された姉妹都市交流財団の方々、さらには、団員を温かいおもてなしで受け入れていただきましたホストファミリーの方々から感謝申し上げます。

周南市長 木村 健一郎

姉妹都市提携までの あゆみ

国際化時代が叫ばれる中、姉妹都市の必要性を認識し、候補地を探していたところ、地元企業である株式会社東ソーにより、オランダのデルフザイル市が紹介された。国際貿易に基本を置く港湾化学工業都市であるという類似した都市形態を背景に、互いの文化、生活様式の相違性の理解を深めることが大切であるとし、平成2年5月22日に姉妹都市提携調印団をデルフザイル市に派遣して、調印を行った。





Delfzijl

(デルフザイル)

Netherlands Groningen (オランダ フローニンゲン)

デルフザイル市について

市の概要

デルフザイル市は、オランダのフローニンゲン州北部に位置する港湾都市である。岩塩と天然ガスの発見により化学工業を主体とする工業の街として発展した。また、自然の良港を有し、周南市と都市形態が似ている。住宅街はレンガ造りの瀟洒な家並みが並び、自然を多く残した美しい街である。(デルフザイルという名は、デルフ川にあった水門「ザイル」に由来している。)

- 人口／約25,000人
- 面積／約227km²
- 言語／オランダ語、英語
- 通貨／ユーロ (EURO)
- 交通／アムステルダムから車で約3時間



概略日程

8/1(木)	● 6:34	周南市	徳山駅出発(新幹線こだま 821 号)
	● 7:38	福岡	博多駅到着、地下鉄で福岡空港に移動、出国手続
	● 10:25	福岡空港	福岡空港出発 (KLM オランダ航空 870 便)
	● 15:10	● アムステルダム	アムステルダム空港到着 入国手続 市内ホテル宿泊
8/2(金)	● 午前	●	市内視察 (国立博物館、アンネの家、運河等)、
	● 午後	●	デルフザイルに移動
	● 17:00		デルフザイル到着 市役所にて歓迎会、ホストファミリーに面会 ホームステイ
8/3(土)	● 午前		ホストファミリープログラム
	● 午後		ファームサム散策 (エオリスの風車、教会) 交流会 (バーベキュー、オランダの伝統ゲーム) ホームステイ
8/4(日)	● 終日	デルフザイル	ホストファミリープログラム ホームステイ
8/5(月)	● 終日		フローニンゲン州、ドレンテ州視察 ホームステイ
8/6(火)	● 終日		ホストファミリープログラム ホームステイ
8/7(水)	● 午前		消防署視察
	● 午後		農場見学 お別れ会 ホームステイ
8/8(木)	● 午前	● ユトレヒト	デルフザイル出発
	● 午後	●	ユトレヒト到着、市内視察 (オルゴール博物館、ドム塔、 ディック・ブルーナ・ハウス等) ホテル到着、宿泊
8/9(金)	● 午前		ユトレヒト出発 空港へ
	● 12:00	アムステルダム	アムステルダム空港到着、出国手続
	● 14:00		アムステルダム空港出発 (KLM オランダ航空 869 便) 機内泊
8/10(土)	● 8:20	福岡空港	福岡空港到着、入国手続、地下鉄で博多駅に移動
	● 10:22	福岡	博多駅出発 (こだま 738 号)
	● 11:49	周南市	徳山駅到着

周南市

友好親善訪問団の名簿

平成 25 年度
Delfzijl
友好親善
訪問団



- ページ 山口県立高森みどり中学校 3 年
13 岩本 優希 Yuki Iwamoto
- 山口県立高森みどり中学校 1 年
15 河谷 知宥 Chihiro Kawatani
- 周南市立住吉中学校 2 年
17 實近 菜那 Nana Sanechika
- 山口大学教育学部附属光中学校 2 年
19 田邊 百花 Moka Tanabe
- 周南市立菊川中学校 2 年
21 中田 季沙良 Kisara Nakata
- 周南市立太華中学校 1 年
23 中村 一希 Kazuki Nakamura
- 周南市立周陽中学校 2 年
25 西岡 聖奈 Sena Nishioka
- 周南市立富田中学校 1 年
27 温品 春香 Haruka Nukushina

- ページ 周南市立太華中学校 1 年
29 原田 朱里 Shuri Harada
- 周南市立福川中学校 3 年
31 村中 沙樹 Saki Muranaka
- 山口県立光丘高等学校 3 年
33 久賀 真珠海 Masumi Kuga
- 大島商船高等専門学校 2 年
35 新宅 杏理 Anri Shintaku
- 高川学園高等学校 1 年
37 杉村 由香子 Yukako Sugimura
- 山口県立新南陽高等学校 2 年
39 橋本 佳奈 Kana Hashimoto
- 山口県立新南陽高等学校 2 年
41 村中 由樹 Yuki Muranaka
- 周南市役所企画総務部政策企画課
43 守重 一史 Kazufumi Morishige

友好親善訪問団活動の様子

in オランダ・デルフザイル 8月1日～10日 団長：守重 一史 記

8月1日（木）



スキポール空港にて

10時25分に福岡空港を出発し、約12時間のフライトを経て、現地時間の15時10分にアムステルダムに到着。福岡空港からの直行便が利用できたため、移動が非常に楽でした。

その後、ホテルに直行し、夕食を食べて就寝というスケジュールでしたが、オランダに着いた興奮もあり、団員達は夜遅くまで起きていたようです。

早朝6時34分、多くの方に見送られ、徳山駅を出発しました。

「家族と離れてみんな緊張しているかな」と思いきや、団員達は新幹線の中で楽しそうにおしゃべりをしていました。7月に行われた説明会の時から既に打ち解け合っていたようで、この時には親友のように仲良くなっていました。



ホテルにてオランダ初の食事

8月2日（金）

午前中はアムステルダム市内を視察。アンネフランクの家や国立博物館を見学しました。オランダならではの美しい街並みに感動し、写真を撮たくさん撮りました。

昼から運河巡りをした後、バスで3時間かけてデルフザイルへ向かいました。バスでしばらく走ると、辺り一面綺麗な緑の景色に変わり、のどかな風景に心が癒されました。



アンネフランクの銅像の前で



国立博物館



田園風景



デルフザイル市庁舎の前にて

デルフザイル市庁舎に到着すると、気温 37 度の暑さに関わらず、たくさんの方による盛大なお出迎えがあり、とても感動しました。

到着後は議場にて歓迎会が行われました。歓迎会の最後は中村君の英語の挨拶です。オランダ語も混ぜて周囲の笑いを取りながら、しっかりと締めくくられました。

歓迎会終了後はいよいよホストファミリーとの対面です。緊張の瞬間でしたが、ホストファミリーの温かい笑顔が、みんなに安心感を与えてくれました。



ホストファミリーとの初対面



中村君カッコよかったです

8月3日（土）

デルフザイル2日目、ホストファミリーとの生活が本格的に始まった日の午前中は自由時間でした。

私は、ホストファミリーのフロート市長夫妻と息子さんの4人で、お隣のアッピングダム市へ出かけました。他の団員も買い物に行ったり、ボートで運河下りをしたりとそれぞれ楽しい時間を過ごしたようです。



アッピングダム市のカフェにて



ファームサム散策の様子

午後は、全員集合してファームサムを散策しました。住宅地や公園、港などデルフザイルののどかな街並みを堪能しました。永源山公園にあるゆめ風車のモデルになった、エオリスの風車も見学しました。



エオリスの風車

散策の後も、バーベキューをしたり、オランダの伝統ゲームで遊んだり、盛り沢山の内容でした。団員達はいつの間にかデルフザイルの子ども達ともすっかり仲良くなっており、その早さに驚かされました。



バーベキュー美味しかったです



8月4日（日）

最初のホストファミリープログラムの日です。ホストファミリーとの過ごし方は、アザラシの保護センターを見学したり、フローニンゲン市へ観光に行ったり、遠くはオランダの名所である『締め切り大堤防』へ足を運んだりと様々だったようですが、ホストファミリーと交流を深めることができた、充実した1日となりました。



私は、公式訪問団に同行させていただき、エメフロート市長にデルフザイル市内やブラウウェスタッドを案内してもらいました。最後は、フローニンゲン市の繁華街で、ショッピングを楽しみました。



フローニンゲン市の繁華街

8月5日（月）



ホストファミリーと共に全員集合して、バスでフローニンゲン州とドレンテ州を訪問しました。

平日にも関わらず、多くのホストファミリーの方が同行してくれて、大型バスがほぼ満席になりました。

午前中は、Ellert en Brammert にてオランダの歴史について学びました。

昼食は、ドレンテ州にある人工池でオランダ名物のクロケット（挽肉とホワイトソースを細長い俵型にしてからからりと揚げたオランダ風コロッケ）と肉団子入りスープなどをいただきました。クロケットは子供たちに大人気で、あっという間に無くなってしまいました。



Ellert en Brammertにて



クロケット美味しかったです

午後はフルタングの星形要塞を見学しました。この要塞は、オランダ独立戦争（80年戦争）時に建設されたもので、現在は普通の街になっています。要塞の中には土産物店が何店舗もあり、たくさんのお土産を買いました。



フルタングの星形要塞にて

8月6日（火）

2回目のホストファミリープログラムの日でした。

団員達は、この日も様々な所へ連れて行ってもらい、充実した1日を過ごしました。ホストファミリー数家族が集まって、一緒にパーティーを行ったところもありました。

私は、また公式訪問団に同行させていただき、午前中はケミパークの見学、午後はドラルト湾クルージングに連れて行ってもらいました。クルージングではセール張りを体験しました。



ケミパークにて



夜には、木村市長による周南市のプレゼンテーションが議場で行われました。

非常に多くのデルフザイル市民が聞きに来られ、会場は満員でした。ホストファミリーの方々も、何人かいらっしゃいました。

プレゼンテーション終了後、市民の方々が『すばらしかった』と感動していた場面がとても印象的でした。



木村市長のプレゼンテーション前のひととき

8月7日（水）

いよいよデルフザイルでのプログラム最終日です。

午前中は全員で消防署を見学しました。消防署では、防火服を着ての放水訓練、救命ボートに乗って運河下り、消防車に乗って街中ドライブなどのアクティビティを行いました。この日は、曇り空で肌寒かったですが、団員達はこれまでのプログラムの中で一番楽しんでいたような気がします。



消防服似合ってるでしょ



昼食後はタームンテンの教会周辺を散策した後、ダーウィンケルさんの農場を訪問しました。牧場のにおいなど慣れない環境に団員一同驚いていましたが、いただいた牛乳やチーズは美味しくて大好評でした。



生まれて間もないかわいい子牛



チーズ美味しかった

お別れ会の様子

夕方より、港近くの宴会場でお別れ会が盛大に行われました。たくさんの種類のオランダ伝統料理をいただきながら、デルフザイルの方々による楽器演奏やコーラスなどを観賞しました。

お別れ会のクライマックスは、私たちの感謝の気持ちを伝える出し物です。最初は、『世界に一つだけの花』を歌いながらのバルーンアート作成です。練習期間が短かったにも関わらず、見事にバルーンで「キリン」と「うさぎ」を完成させ、お世話になった方々へプレゼントしました。その後、フローニンゲン州歌を歌いました。CDの不具合により、アカペラで歌うというハプニングはありましたが、デルフザイルの方々も加わっての大合唱となり、大いに盛り上がりました。



お別れ会の最後は、實近さんがホストファミリーやお世話になった方々へ英語によるお礼のあいさつで堂々と締めくくってくれました。

お別れ会が終了したのは夜 9 時でしたが、今夜が最後の夜なので、その後も各家庭で二次会が行われたようです。

實近さん頑張りました

8月8日（木）



ついにホストファミリーとのお別れの日がやってきました。7日間という短い間にも関わらず、別れの悲しさで胸が一杯になり、多くの団員が涙していました。そんな団員達を見て、ホストファミリーの方々も涙を流し、お互いに別れを惜しむ姿はとても感動的でした。

短期間で、これほどまでに深い交流ができるのだと感心しました。同時に、言葉は通じなくても、気持ちは十分通じているのだと実感した瞬間でした。

団員達はホストファミリーとのお別れが辛く、なかなかバスに乗り込めませんでした。乗り込んだ後も見えなくなるまで手を振って、感謝の気持ちを伝えました。ホストファミリーと過ごした日々は団員達にとって一生の宝物となったことでしょう。



皆様本当にお世話になりました



ミッフィーと私どっちがかわいい？

バスでユトレヒトへ移動し、ホストファミリーとの別れの余韻を残しつつ、午後からオルゴール博物館とディック・ブルーナ・ハウス（ミッフィーの家）を見学しました。日本でもお馴染みのミッフィーの家では、可愛いお土産をたくさん買いました。

8月9日（金）、10日（土）

朝からスキポール空港へ向かいました。昨晩はオランダ最後の夜ということで、団員達はかなり遅くまで起きていたためか、移動のバスの中ではほぼ全員が熟睡、とても静かな移動となりました。

スキポール空港での自由時間は、最後のお土産を必死になって選びました。帰りのフライトでも多くの団員が熟睡しており、時差調節も上手く出来たようです。

福岡空港に到着すると、『もわっ』とする熱風が吹きつけ、日本に帰ってきたことを実感させてくれました。オランダも暑かったですが、やはり日本は暑いです。そんな暑さの中、大きなスーツケースを持っての移動は大変でしたが、団員達は最後の力を振り絞って、てきぱきと動いてくれました。

徳山駅に到着し、保護者の方や市職員の方々の姿が見えた瞬間、団員達の安堵の表情を伺うことができました。私自身も、団員達を無事に保護者の元へ送り届けることができ安心したのか、一気に肩の力が抜けたのを覚えています。

徳山駅構内で解団式が行われ、10日間の全日程を終了しました。私は団員全員の背中を見送ったのですが、不思議と団員達が出発時よりも大きく見えました。おそらく10日間の経験が、彼らを一回りも二回りも大きく成長させたのだと思います。

この10日間が、団員達にとって、人生におけるかけがえのない経験となったことは間違いありません。この経験を生かして、これからの人生を切り拓いてほしいと思います。



どうどうオランダともお別れです



無事に帰ってきました

Delfzijl Map





この写真は、ホストファミリーとオランダの民俗衣装を着たときの写真です。とてもいい体験ができました。
(僕は左から2番目)

周南市友好親善訪問団に参加して

山口県立高森みどり中学校 3年

岩本 優希

Yuki Iwamoto



僕は、ホストファミリーに出会い、一番嬉しかったことは、初対面の僕のなれない英語を一所懸命聞いて理解してくれ、僕に分かりやすい口調で話しかけてくれたことです。それから、僕が退屈しないように気を遣ってもらえました。家族の一員として受け入れてもらえたような気がして、徐々に僕の緊張感はほぐれていきました。また、出会う人みんなとフレンドリーに接することが出来ました。

ホストファミリーの家族構成は、母親、兄、弟、妹の四人家族です。

次に、僕にオランダの文化を教えてくれた時には解りやすく解説してくれ、町や建築物を回ってくれました。特にフロンニンゲン州に連れて行ってくれた時には、様々なものを見せてもらい、すごく勉強になりました。特に、マルティニ教会に行った時の塔を登るときはすごく辛かったけど、その後見た景色は州の街並みを一望できとてもきれいでした。僕はホストファミリーの方々のように親切な心をもって誰とでも接していきたいです。

僕は、オランダに行く前に「自分の意見をはっきり言う」という目標を立てて出発しました。なぜなら、自ら積極的に話し掛け、いろんな人の意見を取り入れて自分の視野を広げたかったからです。しかし、実際はすごく難しく、自分の意見(言葉)が伝わるかどうか不安でした。でも、オランダの方の「理解」協力もあり、どうにか伝わったみたいです。

それから、今回の訪問には必ず協力が必要だと実



1 この写真はアムステルダム運河の写真です。運河は人が掘ったとは思えない運河でした。船から見たアムステルダムの昔からの街並みはとてもきれいでした。

2 これはオルゴール博物館に行った時のオルゴールの写真です。オルゴールの音色は昔の音をそのまま移したようでした。

3 この写真はチーズの製造所に行った時の写真です。初めてチーズを作る過程を見ました。チーズが出来るまでいろんな過程があるのを知って面白かったです。

4, 5 これはマルティニ教会の塔からの景色の写真です。ここからは、街のつくりや人通りを見ることができました。



感じました。人と人が手を取り合って助け合い、一つのものを完成させる、特にお別れ会の出し物の準備の時が一番協力という言葉を感じました。お別れ会では僕は司会をさせてもらいました。英語での司会は難しく、声に出すのが不安だったけれど、会場の人が熱心に僕たちの出し物を見てくれたので、緊張はしましたが平常心で司会を進めることができました。最後に会場にいる全員で歌ったフローニンゲン州歌は大変感動しました。別れる時にはいろんな思い出が脳裏に思い浮かんで辛かったです。

僕は今回の周南市友好親善訪問団に参加して多くの貴重な体験をさせていただきました。友好都市・デルフザイル市を見て感じ、人と出会い別れと、たくさんものを学ぶことができました。デルフザイル市は、とても綺麗な街並みで、エオリスの風車は大きくて迫力のある建物でした。僕は、これからオランダでの出来事を忘れることはありません。『感謝』という言葉忘れずに生活していきます。大変ありがとうございました。



ブーンストラさんの家に着いてすぐの写真です。まだまだ緊張しています。(私は真ん中)

平成 25 年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

周南市友好親善訪問団に参加して

山口県立高森みどり中学校 1 年

河谷 知宥

Chihiro Kawatani

私は、今回、この周南市友好親善訪問団に参加して、たくさん貴重な体験をすることができました。なぜ私がこのオランダ訪問に参加したかったかというと、昨年、オランダからの訪問団のヤニという十七才の女の子のホームステイを引き受けたことがきっかけです。それまでは、オランダがどこにあるのかも知らなかった私ですが、ヤニちゃんと友達になったことで、オランダに興味を持ち、いつか行つてみたいと思つようになりました。

それから私はオランダについて色々調べてみました。街並みがとてもきれいなことや、風車、木靴、チーズのこと。そして私が一番驚いたのは、オランダは、子供の幸福度が世界で一位だということです。残念ながら日本の子供の幸福度はものすごく低いのです。一体何が違うのだろうと思ひ、実際にオランダに行ったら、このことを体感してみたいと思いました。

いよいよオランダでのホームステイが始まり、私は不安でいっぱいでした。でも、ホストファミリーのブーンストラさんが、いつも笑顔で、わかりやすい言葉で話しかけてくれたので、すぐに不安は消えました。英語力に自信がなかったので、積極的に自分から関わっていくことはできなかったのですが、自分の特技の空手とそろばんを披露したいこと、家族あてにエアメールを出したいことなど、自分の希望をしっかりと伝えることができたので

- 1 オランダの伝統的な民俗衣装を着て、記念写真を撮りました。木靴も履いています。
- 2 日本からカレールーをお土産として持っていき、ママと一緒に作りました。みんなとても喜んでくれました。
- 3 オランダの朝食の様子です。パンにトッピングをして食べることが多かったです。とてもおいしかったです。
- 4 お別れの時の写真です。まだまだオランダにいたかったです。



良かったです。オランダは日が暮れるのが遅いので、夕食後に友達同士で集まって、パーティーをすることもありました。そういう時は大人は先に寝てしまい、子供だけのパーティーが多く、みんな本当に楽しそうに遊んでいました。私が日本とオランダの違いで一番驚いたことは、オランダの家族はとても仲が良いということです。日本は、本当は仲が良くてもそれを他人に見せるのは恥ずかしいと思ってしまふ所がありますが、オランダにはそれがありません。夫婦も親子も抵抗なく手をつないだり、ハグをします。子供は本当にパパとママのことが大好きで、日本の子供のような反抗期は、オランダでは見かけませんでした。家族みんなが仲が良いこと、そしてそれをきちんと表現することが、子供の幸福度につながっているように感じました。

今回のホームステイで、私はたくさんことを学び、人とのつながりを作ることができました。ブーンストラさん家族とは、これからも交流を深めていきたいし、オランダのことまだまだ知りたいです。いつか必ずまたオランダに行って、みんなに会って色々なことを話したいです。そのために、一生懸命英語を勉強して、自分の考えをスラスラ話せるようになりたいです。



ホストファミリーのみんなと一緒に撮った写真。
(私は左から2番目)

周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立住吉中学校 2年

實近 菜那

Nana Sanechika

私は、オランダでの十日間、沢山の思い出ができ、とても
すばらしい体験ができました。

飛行機で過ごした時間は、とても長く、でも短く感じま
した。

オランダに到着して二日目、緊張とワクワクした気持ち
の中、ホストファミリーと対面しました。ホストファミリー
の方は、背が高く、優しくうでした。さっそく覚えたオラ
ンダ語で自己紹介と挨拶をしました。すると、セレーナと
ロイが、日本語で挨拶をしてくれたので、とてもびっくりし
ました。

ホストファミリーの方に案内してもらい、家に着きまし
た。私のために用意してもらった部屋は、とてもオシャレで
した。着いてすぐ、自転車に乗らせてもらいました。驚いた
ことに、オランダのブレーキは、手ではなく、足だったのだ
です。私はオランダの文化を感じました。そして、みんなと自
転車で、街を回りました。牛や羊が、芝を食べていて、「自然
豊かな国だなあ。」と思いました。

家に帰って、ホストファミリーに、お土産の箸をプレゼン
トしました。箸の使い方を教えていると、ホストファザー
が、「NO〜!」と叫びました。その時、みんなで笑いまし
た。セレーナは、箸の使い方がとても上手でした。日本の文
化を知ってもらって、嬉しかったです。

六日目、ホストファミリーと訪問団の友達と一緒に、カヌ
ーをしました。人生で初めてのカヌーなので、少し不安で
したが、だんだんと慣れてきて、とても楽しかったです。

午後は、セレーナとお城を見に行きました。そのお城の
庭には、オランダで一番太い美しい、木がありました。二人
で、「BIG!」を連続して言い合ったりして、楽しかったで
す。





1 アンネフランクの家に行った時の写真です。

2 訪問団の友達とカヌーを体験した時の写真です。

3 お別れ会で、訪問団員代表でスピーチをした時の写真です。

4 ホストファミリーと自転車に乗った時の写真です。ホームステイ初日にホストファミリーの方と一緒に、自転車でフェスティバルに行きました。

5 セレーナとオランダで一番太い木の前で撮った写真です。



七日目、オランダの消防署に行きました。実際に服を着て、放水を体験させてもらいました。私は、消防署にいる皆さんが、ボランティアでやっていることに驚き、感動しました。なかなか体験できないことをさせてもらい嬉しく思っています。

八日目、お別れ会がありました。周南市で練習した、歌、バルーンアートを披露しました。フーニンゲン州歌を全員で歌ったとき、とても感動しました。言葉が違って、文化も住む所も違っけれど、そんなことを全く感じさせない一時でした。

私は、ホストファミリーに、お別れ会最後のスピーチを読むと伝えると、みんなが、「頑張って！」と言ってくれました。ホストファザーが「菜那なら良いスピーチができる！」と言って、手をGoodのサインにして、送ってくれました。スピーチが終わるとホストファミリーがハグをしてくれました。本当の家族になったようでした。別れがとても悲しかったです。

十日間という短い間でたくさんの貴重な体験をさせてくださった、ヒンリッシュ家、周南市の方、学校関係者の方、家族に感謝しています。本当にありがとうございました。



ホストファミリーと他のホストファミリーとビックハウスに来た。昔の貴族のことを知ることができて、嬉しかった。(私は前列右)



周南市友好親善訪問団に参加して

山口大学教育学部附属光中学校 2年

田邊 百花

Moka Tanabe

今回オランダへの友好親善訪問団に参加して、たくさんの貴重な経験ができました。この出来事が私の将来に大きな影響を与えてくれると思います。ありがとうございます。

日本を飛び立ちオランダに着くと、言葉では表せないような感情がこみあげてくるのと同時に嬉しさと期待で胸がいっぱいになりました。

私のホストファミリーには同じ年くらいの女の子がなくて男の子二人でした。男の子と言っても年齢は十八歳と二十歳だったので、何を話せばよいのかわからないし、その言葉をどうやって英語で伝えればいいのかと言語の大きな壁にぶつかりました。英語をほとんど話せない私にホストマザーが、「問題ないよ！気にしないで。」と言ってくれた時には、すごく嬉しくて胸が熱くなったのを今でも覚えています。

二日目にあった歓迎会では、オランダの文化をたくさん知ることができました。「エオリスの風車」の中に入った時は驚きました。何段もある急な階段がたくさんあり、上に着くまでにすごく疲れましたが、風車の上に登り外に出ると、とても素敵な景色だったので感動してしまいました。そこにはオランダらしい風景があったからです。同じ世界なのにこんなに美しい所があるとは思いませんでした。

それから、交流としてゲームをしたりしてみんなで遊びました。他のホストファミリーとも仲良くできたことが良かったです。この歓迎会が私にとって一番楽しかった思い出です。

あと驚いたことがあります。ホストファミリーとスーパ



ーに行った時のことです。一つ一つの商品の大きさがとても大きかったからです。オランダの人は細身の方が多いのに、こんなに大きなものが必要なのかなと思いました。

ホームステイにも慣れてきたころ、いずれ別れが来てしまうんだと思いました。こんなにもよくしてくれた方々と別れるなんて悲しくてたまりませんでした。でも、別れはくるものです。お別れ会では、最後にいい思い出ができたと思います。お別れ会が終わるくらいになると、私は涙が溢れてきました。とても恥ずかしかったです。とうとうお別れの朝がきました。お別れすることが辛くて悲しくてたまりませんでした。ホストファミリーにはとても優しくしていただき、本当に感謝しています。ホストファミリーと過ごした六日間は、私にとってかけがえない大切な思い出となりました。

私は、将来、世界と関わる仕事について、いろいろな国に行き、いろいろなことを学び、この度お世話になったホストファミリーに必ず会いに行きたいと思っています。

オランダの訪問が私の世界観を変えてくれました。この経験を活かして、これからの将来に役立てていきたいと思っています。

最後に、今回の訪問の関係者の方々に感謝致します。一生忘れることのない素敵な思い出をありがとうございました。



1 ここでたくさんお土産を買いました。オランダの物がたくさんありました。

2 「エオリスの風車」はすごくきれいでした。上に昇った時は、すごく恐くて足がふるえました。

3 王宮！！すごい豪華！ここに雅子様が訪れたらいいです！

4 アンネ・フランクの家に行って、アンネの人生を見ました。昔はすごく大変だと思いました。私は幸せ者だなとつくづく思いました。

5 オランダの運河。家族でボートを持っている家が多くて驚きました。川の幅が広かったです。

6 昔の教会の「ドム塔」。昔も今も、ヨーロッパは綺麗だな。昔の人はすごいと思いました。



アンネ・フランクの銅像の前で撮った写真です。アンネ・フランクの家では、いろいろ学ぶことができました。ユダヤ人への差別など、とても厳しい現実がそこにはありました。アンネのように人種が違うだけで差別を受けてしまうということが、いかに辛いことなのか分かりました。アンネの日記は英語かオランダ語ばかりであまり分からなかったけれど、きっと何かを伝えようと思って書いたのだと思います。(私は右から2番目)

周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立菊川中学校 2年

中田 季沙良

Kisara Nakata

私は、周南市友好親善訪問団に参加して二つのことを学びました。

一つ目は、YesとNoをはっきりと言うことです。日本だったら説明などをすれば、少しあいまいな答えでも伝わりますが、外国でははっきりとYes、Noを言うたりしないと伝わりません。また、外国の人々は口で言うよりも表情で伝えることもありました。最初の頃は、少し話すのが大変でしたがYesとNoをはっきり言うことや表情を気にすることでホストファミリーとも打ち解けることができました。日本でも、YesとNoをはっきり言うようにしたいです。

二つ目は社交性です。私は、オランダの人と「話そう!」と思っていたのですが、文や単語は分かっているのに勇気が出ずに言えなかったことがありました。他の友達とかはすっかり仲良くなっていた、なんていうことがあり、少し後悔しました。でも、一人でいたら友達やホストファミリーが声をかけてくれて、それからほとんど話せるようになりました。自分から話しかければ良かったな、と思う面もありつつも、少しでも話せて良かったです。日本でも、もっとと話し掛けていきたいです。

私はこの十日間で本当にオランダが大好きになりました。都会なのに空気がきれいで本当に良い街だなと思いました。オランダの人はとても優しくフレンドリーな人たちばかりでした。ホストファミリーもすごく優しく、お別れの時はすごく悲しくて寂しくて涙が出ました。十日間、こんなにも楽しめたのはホストファミリーのおかげだと思います。オランダが大好きになったので、また行きたいです。

今まで日本しか見ていなかった私の視野は一気に広がりました。英語やオランダ語は読めないけれど、すごくおしゃれ



1 オランダの街並みです。自転車を使う人が多く、自転車置き場にはいつも自転車がいっぱい。貸出用の自転車を使う人が多くて、同じような自転車がたくさんありました。車をあまり使わないから都会でも空気がきれいなのだと思います。日本も真似た方がいいと思います。また、山が少ないので交通が非常に便利で信号もほとんど無かったです。

でかわいいお店があったり、看板があったので頑張って読んでみたりと新鮮なことが多かった。普段、日本にいたら看板を頑張って読むことなんてしないのでとても楽しかったです。また、オランダの街並みや風景は夢みたいで、「本当にこんな所があるのか。」と感動しました。本当に何かから今まで全てが初体験で楽しかったです。道路に落書きをするとか、十時ぐらいまで遊ぶとか、日本では考えられないけれど、もうその全てのが楽しかったです。

最初はすごく緊張したけど、参加して良かったなと思います。



3 オランダには黄色、赤色、青色、白色の「アクエリアス」がありました。日本では白っぽいアクエリアスしか飲んだことが無いのでびっくりしました。ホストファミリーに「日本には白色のしか無いんですよ。他の色のは珍しいんですよ。」と言うと、青色のアクエリアスをプレゼントしてくれました。



2 オルゴール博物館は、沢山のオルゴールがありました。考えられないほど大きいオルゴールもあって、やっぱり音も大きかったです。音色もとてもきれいでした。1つ1つ音や曲の雰囲気も違うので、聞いていて眠くなるほど心地良かったです。ぜひ、また行きたいです。オルゴールに描かれていた絵は色使いがとてもきれいで、そこも見所だなと感じました。



4 ディック・ブルーナ・ハウスでは、ミッフィーの作品がたくさん飾られていました。ミッフィーの作品だけでなくブルーナの描いた他の絵も飾ってありました。少し怖い絵もあったけれど、それもまた上手できれいでした。ミッフィーはとてもかわいかったです。小さい子が遊べるスペースもあり、色々な人が楽しめる素敵な場所だと思います。





僕のホストファミリーと一緒に撮った写真です。ホストファミリーはみんな優しくて背が高かったです。(僕は前列真ん中)

周南市友好親善訪問団に参加して



周南市立太華中学校 1年

中村 一希

Kazuki Nakamura

僕は、この周南市友好親善訪問団に参加して、まずデルフザイルという市があることを知りました。

僕を引き受けてくださったホストファミリーは、お父さんとお母さんと息子さんの三人家族でした。三人とも背が高くて驚いたけど、とても優しく、僕が全く英語を話せないと分かったら、息子さんの持っていたタブレットの翻訳機能で僕にいろいろなことを伝えてくれました。僕もそのタブレットでいろいろなことを伝えさせてもらいました。

その次の日、全員が集合して、みんなでゲームをしました。最初は、ウォークラリーのようなもので、いろいろな所を回りました。その中でも、風車に入り登った時は、とてもドキドキしました。風車の中のはしはとても急でした。さらに、風車の外を歩けるような広い場所があり、そこは木の板でできていて、その板と板の間がとても開いていて、下が見えて恐かったです。

次の日、僕は、とても大きな時計塔に登りました。とても急な階段が延々と続いていました。そして一番上には大きなオルゴールと、知らない楽器が置いてありました。お父さんに、「これは何？」と聞いてみると、「クロツケン」と答えてくれました。そして、日本の曲も演奏してくれました。

さらに次の日、僕はホストファミリーのお



父さんと息子さんと一緒に、船で釣りに行かせてもらいました。船は、ロバートというホストファミリーの友達が出してくれました。そして船を出したらすぐに低い橋があったので、その橋を上げて進みました。僕も橋の上げ下げをやらせてもらいました。その後、釣り場に着き、釣りを始めると入れ食い状態でした。僕はその日一番の大物を釣りました。

僕はこの経験を次に活かしていきたいように、これからも頑張りたいと思います。

1 この写真はホストファミリーと訪問団員全員が集合して風車に行った時の写真です。風車に登った時はなかなか恐かったです。

2 この写真は釣りをさせてもらった時の写真です。僕はこの日一番の大物のバスを釣り上げました。

3 この写真は船を通すために橋を上げているところです。この橋の上げ下げを僕は体験させてもらいました。

4 この写真はフローニンゲンの時計塔で撮った写真です。クロッケンと呼ばれるオランダの楽器です。



周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立周陽中学校 2年

西岡 聖奈

Sena Nishioaka

8月4日

何人かのホストファミリーと植物園に行った時に撮った、ホストファミリーとの写真です。(私は前列真ん中)

私は、抽選に当たった時、初めてヨーロッパのオランダに行けるという嬉しさが多かったのですが、日本を出発する日が近づくにつれて、私の少しの英語力でホストファミリーと会話ができるのかどうか、とても不安で心配でした。

私を受け入れてくださったホストファミリーは、お父さん、お母さん、子どものリサの三人で仲の良い家族でした。ホストファミリーの夫婦は娘のように、リサは妹のように受け入れてくれて嬉しかったです。

ホストファミリープログラムでは、買い物、植物園、アザラシの病院、キャンドルづくり、動物園とたくさん企画をしていただき連れて行ってもらいました。全部がオランダで初めての体験なので、一つ一つが楽しく、一日一日を充実して過ごすことができました。食事は、夫婦の手作りを、外のテラスで毎日食べました。とても涼しいところで温かい食べ物を食べるので、どれもおいしかったです。私は、ホストファミリーと面会した日は、ホストファミリーが英語を話すスピードが速くて聞き取れなく、伝えようとしても私の少しの英語力では伝わらなく、とても辛かったです。しかし、次の日からは、私が悪戦苦闘していることに気が付いてくださったのか話すときは、ゆっくり話をしてくださるようになり、分かりやすいように説明を手振りでもしてくださるようになりました。その日から、英語で会話することが楽しくなりました。

私は、この周南市友好親善訪問団に参加するまでヨーロッパが初めてということもあってオランダのことも、デルフザイル市のことも全くと言っていいほど知りませんでした。私は、市役所の方や同行される旅行会社の



方からのお話でだんだんオランダのことを知るようになりました。そこで学んだ風土や文化や生活をオランダに行つて実際に見たり、感じたりすることができました。オランダでの風土や文化や生活を日本で学んだよりもさらに深めることができました。

私は、ホストファミリーやオランダで仲良くなった友達と別れるのがとても悲しかったです。たくさんのお話を企画から全部してくださつて、だんだん仲良くなつていった時に別れというのは、とても辛かったです。必ず、また、オランダのホストファミリーや仲良くなった友達に会いたいです。そのために、しっかり勉強して英語力を身につけて、もっとたくさんの人とコミュニケーションをとれるようにして自分のことを知ってもらい、相手のことも知りたいです。

今回、私を受け入れてくださり、たくさんのお話をしてくださつたホストファミリーにお礼を言いたいです。これからもホストファミリーとは、仲良くしていきたいです。

- 1 8月4日：日本のお土産に折り紙をあげた時に、鶴の折り方を教えている時の写真です。
- 2 8月4日：リサのおばちゃんと面会した時の写真。日本の伝統的な服装が好きなおばあちゃんに日本のお土産で持って行ったミニチュアの着物に喜んでくれて嬉しかったです。
- 3 8月5日：リサの友達とタゴ飯を食べた後、家の近くの公園で日本のコーヒーカップのような遊具で遊んだ時の写真です。
- 4 8月6日：ホストファミリーと田邊さんのホストファミリーと一緒に動物園に行った時の写真です。テレビでしか見たことない生き物や初めて見る動物などたくさんいて楽しかったです。
- 5 8月6日：リサと田邊さんとダニーとダニーの友達とカップケーキを作った時の写真です。



平成 25 年度
Delfzijl
友好親善
訪問団



ホストファミリーと一緒に撮った写真です。
(私は左)

周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立富田中学校 1 年

温品 春香

Haruka Nukushina

この訪問団に参加し、日々の生活では得られなかったたくさんの経験をしました。ホームステイに行ける嬉しい気持ちと不安な気持ちが入り混じっていました。言葉がオランダ語と英語できちんと伝わるのか。けれど、ホストファミリーや周りの人たちが私の聞き取れる速さで話してくれ、自分もわかる英語で一生懸命話し、不安な気持ちはありませんでした。よく使った言葉は、「イエス」、「ノー」、「ハロー」、「ダンキユベル」です。「ダンキユベル」と言った後、「アシュリース」と言うことを発見しました。「ありがとう。」と言っているのが分かり嬉しかったです。

ホストファミリーと買い物に行ったり、家の周りには海の近くだったので自転車で海を見に行きました。オランダの人は足が長いのか、とても速く歩いて行くのが大変でした。また、ビリヤードやトランプをしながら暗くなるまで遊びました。

ホストファミリーの人に日本のお土産を渡し、とても喜ばれました。日本ならではの、「こはん」、「のり」、「ふりかけ」、「駄菓子」、「漫画」。一緒にご飯にふりかけをかけ、のりを巻いて食べました。「オー イッツ デリシヤス!」と言ってくれたので嬉しかったです。

それから、産まれてすぐの赤ちゃんにも会いました。とても小さく手を握ると「ギュ」と握り返してくれてかわいかったです。赤ちゃんのいる家には「旗」が立てられていました。コウノトリが赤ちゃんを運んでくるブルーの「旗」で素敵な「旗」です。



2

- 1 産まれてすぐの赤ちゃんに会いました。とても小さく、手を握ると握り返してくれてかわいかったです。
- 2 自転車で海を見に行った時の写真です。
- 3 ホストファミリーや訪問団員の友達と撮った写真です。
- 4 教会で撮った写真です。
- 5 ホストファミリーに日本のお土産を渡しとても喜ばれました。一緒にご飯にふりかけをかけ、海苔をまいて食べました。
- 6 ブールタングの星形要塞で撮った写真です。



また、念願だった民俗衣装を着て家族全員で写真も撮りました。私の宝物です。

いろいろな経験をして、たくさんの新しい出会いもあり、あつという間の十日間でした。来年はオランダの人達が周南市に来るので、是非会いたいです。本当にこの訪問団に参加して良かったと思います。



4



3



6



5



ホストファミリーと面会した時の写真
です。写真を撮る前、どんな家族なのか
ワクワクしました。(私は右から 2 番目)

周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立太華中学校 1 年

原田 朱里

Shuri Harada

私は、初めての海外でオランダという国を学びました。
オランダは、日本と違うところがたくさんありました。
日本は緑色のきれいな山に囲まれています。しかし、オランダはほとんど山がなく、平地で大きな建物がたくさんあるのにとっても広く、緑もたくさんあり、きれいでした。それから車は右側通行で車だけでなく、自転車専用の道路までありました。

次に一番楽しみにしていたホームステイでは、お父さんとお母さん、男の子の三人で暮らしている家でした。そのホストファミリーは私を喜んで受け入れてくれました。お母さんは、とても優しく、おいしい料理を作ってくれたり、オランダの街を案内してくれたりしました。

私はあまり英語が得意ではなくて通じるか不安でした。しかし、ホストファミリーはジェスチャーや私が分かる言い方で伝えてくれました。だから私も、「Yes」や「No」で答えることができ、不安なく過ごすことができました。

ホームステイ二日目は、みんなで集まり、教会やエオリスの風車を見学して、バーベキューをして楽しみました。教会では話を聞いたり、写真を撮ったりしました。パイプオルガンもあり、今でも使えるそうです。

ホームステイ三日目、五日目のホストファミリープログラムでは、スーパーマーケットやショッピングにも連れて行ってもらい、夜になるとホストファミリーや他のホストファミリーたちとパーティーを開いて、たくさん会話をしました。

お別れ会をした日は、みんなで食事をして、それから私たちから出し物を披露しました。皆が喜んでくれたことがとても嬉しかったです。



1、2 湖の近くのレストランで友達と撮りました。ホームステイに参加した、オランダの子と話をしたりして楽しかったです。

3 エオリスの風車の前で撮りました。風車からの眺めは良かったけど、木の板がぎしぎしだったのでビックリしました。

4 お祭りに行った時、ホストファミリーと撮りました。お祭りは、どんな感じなのか楽しみでした。

5 お祭りで撮りました。手と首を真ん中にはめました。初めての体験だったのでビックリしました。



Gemeente
Delfzijl



別れの時、ホームステイに参加したホストファミリーたちは最後まで見送ってくれました。

ホストファミリーに出会って、言葉が通じなくてもちゃんと心の中で通じると思いました。とても短い時間だったけど、一緒に過ごした思い出は楽しく、そしてオランダと日本のつながりを感じることができました。それから、オランダという国に興味をもちました。このことをきっかけに、オランダと日本のつながりや違いを見つけたいです。

ホストファミリーとお屋敷の前。
(私は前列真ん中)

平成 25 年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

2013/08/04

周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立福川中学校 3年

村中 沙樹

Saki Muranaka



オランダでは一生忘れられない思い出が出来ました。

一番最初にホストファミリーと対面したのは、デルフザイルの市役所でした。バスから見えたのは、市役所の前いっぱいにいる私達十五人の訪問団のホストファミリー達でした。その光景はとても私の心を和ませ、温かくしてくれました。そして、いよいよ対面の時、とても緊張しました。この人達と約一週間、仲良くなりたいと心から思いました。

私のホストファミリーは六人家族です。ホストファザーは、写真が好きで、私とホストファミリーのみんなの写真を撮ってくれて、私に最後にCDに写真を焼いてくれました。ホストマザーは、とても私に気を遣ってくれました。そして、いろいろな場所へと連れて行ってくれました。ほぼ全ての場所、物、人のことを私に詳しく説明してくれました。ホストシスターのエリナは、去年、周南市を訪問してくれていました。だから、家には日本の物が少しありました。箸や折り紙と一緒に使ったり、教えてあげました。エリナは双子でお兄ちゃんのマニタインがいました。この二人とはどこに行くにも一緒にいて、本当の兄弟になれたみたいでした。あと二人お兄ちゃんがいる、一番上のお兄ちゃんローランドは、あまり家にはいなかったのですが、いる時は日本から持ってきたおもちゃで遊んだりしました。二番目のお兄ちゃん日本アニメが好きで、よく私に日本語の意



- 1 最終日に行ったオランダの消防署。
- 2 一緒に行ったホストファミリーたち。
- 3 市場でホストファミリーと食べた魚のフライ。



味を聞いてきました。そして、日本語で話しかけてくれました。

こんな素敵なホストファミリーと約一週間過ごせて、私はとても嬉しかったです。

だから最後のパーティーや別れは、とても辛いものとなってしまいました。涙がとまりませんでした。

こんなに一生忘れられない体験、思い出ができて良かったです。そして、今回の体験のおかげで、宗教や言語、文化がちがっても、別れの時には涙が出るほど仲良くなれることを学びました。

平成 25 年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

ホストファミリーと一緒に shopping に行きました。(私は右から 2 番目)



周南市友好親善訪問団に参加して

山口県立光丘高等学校 3 年

久賀 真珠海

Masumi Kuga

私は今回初めて海外に行きました。中学生の時から英語を勉強してきて、自分の英語力を試すことができるワクワク感と緊張で日本を出国しました。アムステルダムでの観光は、アンネの家に行ったことがとても印象深いです。戦争中の少女のメモには、心が打たれるような辛いことがたくさん書いてありました。

それからデルフザイル市へと向かいました。それまでは、訪問団員のみんなと一緒にいたのでオランダにいるという実感はあまりありませんでしたが、そこで初めてホームステイをしに来たんだと実感しました。デルフザイル市に着いて歓迎会をしていただきました。バスから降りた瞬間、たくさんの方が笑顔でこちらを見ていて、ホームステイがより楽しみになりました。私のホストファミリーは四人家族でした。主に私と同じ年の十八歳の女の子が私の面倒を見てくれました。

ホームステイ一日目は、家に着いてからすぐ近所のスーパーマーケットに連れて行ってもらいました。全てのサイズが大きかったです。そしてお祭りに行きました。日本では見ない、屋台で鳥を売っていたり、お餅つきのようなことをしていたり、とても新鮮でした。

次の日の朝はゆっくりして、ウォーキングに行きました。ドイツが海を挟んで見えた時は、ヨーロッパにいたんだと思いました。それからみんなで集まってバーベキューやゲームをしました。その他にも、古いオランダのお家やドレンテ州、消防署、牧場は、みんなで行きました。ホストファミリーだけでなく本



1 BBQ での写真。彼女はとてもかわいかったです。



2 オランダの空はとてもきれいです。



3 ホストファミリーとの lunch。ソーセージは大きかったです。



4 牧場。オランダにはイケメンがたくさんいました！

当に多くの方とお話することができました。私は多くの方と関わりたいたと思って、たくさんの方に話しかけたり、オランダについての質問をたくさんしました。そのせいか、買い物をするうと思っても、「マスマ」と呼ばれて、ずっとオランダ人の中に交ざって話していました。オランダの人はとても明るくて、面白く優しい人ばかりでした。同年代の人が多くて、韓国や洋楽の話でとても盛り上がりました。しかし、会話をしているうちに難しいことがありました。YesやNoなどは簡単に言えますが、日本のルールや自分の意思を伝えることには苦労しました。一番苦労したのはゲームの説明です。中学生が日本の伝統的な遊びをしていた時に「どんなゲームなの？」と聞かれ、説明するのに時間がかかり

ました。もつと英語を勉強しようと思いましたが、オランダで大切な友達と忘れられない思い出を作ることができました。ホストファミリーをはじめ、オランダの方と日本に帰国してから連絡をとっていますが、本当に優しい方たちだと実感できます。私は今回の訪問団員の中で一番年上でした。みんなをまとめることができるかと思っていました。自分なりに出来たと思います。今年の夏は私にとって一生のかけがえのない宝物です。また積極的に色々なことにチャレンジして、世界にはばたくグローバルな人になりたいです。初めての海外がオランダで良かったです。お世話になりました。



5 アムステルダムで木靴とのツーショット。



古い庭園を見に行った時の写真
です。花がとてもきれいでした。
(私は左から 2 番目)

周南市友好親善訪問団に参加して

大島商船高等専門学校 2 年

新宅 杏理

Anri Shintaku



ボートに乗った時の写真です。Rianne と Tom が写っています。

出発時にはほとんど寂しさはありませんでした。私は飛行機に乗ることが初めてだったので少し緊張しました。この時はまだオランダに行くという実感がなく、不思議な感じでした。約十一時間のフライトを経て空港に到着しました。

二日目はアムステルダムにて市内を見て回りました。国立博物館で有名な作品を見たり、運河をクルーズしたりしました。そしてデルフザイルに向かい、待ちに待ったホストファミリーとの対面でした。とても緊張してしまい、上手く話せなかったのをよく覚えています。同時に出会えた喜びとこれから起こることへの期待でいっぱいでした。リアンネの家に行き、その後、ダーと一緒に脚漕ぎボートに乗りました。

三日目にはゲームをしながら教会や風車を見て回りました。夕方からはバーベキューとゲームをしました。言葉が上手く伝わらないものかしきもありましたが、とても楽しかったです。



2

1 みんなでボートに乗った時に Danny とタイタニックをした写真です。

2 アンネの像の前で高校生5人で一緒に撮った写真です。

3 みんなで集合写真を撮ったものです。

4 ボートに乗った時の写真です。



1

四日目には古い豪邸を見ました。庭の花もとても綺麗でした。その後はアザラシを見て、ろうそく作りを体験しました。夕方にはボートに乗りました。

五日目にはオランダの伝統的な家を見ました。お昼にはレストランの近くのビーチで遊びました。この日の夕方にもボートに乗りました。トムたちは泳いでいましたが、私は泳ぎませんでした。

六日目にはマリットと一緒にフローニンゲンに買い物に行きました。教会にも登りフローニンゲンの景色が一望できとても綺麗でした。この後には、みんなでトムの家でパーティーをしました。たくさん話せて楽しかったです。

七日目には雨が降り、とても寒かったです。みんなで二キロ歩いたり消防署、教会、農場を見て回りました。夕方からはお別れパーティーがありました。出し物のCDが流れないというハプニングがありました。が成功して良かったです。家に帰ってからはリアンネの家でパーティーをしました。

八日目にはホストファミリーとお別れでした。お別れだと思つと急に寂しくなり、泣いてしまいました。その後はユトレヒトに行きオルゴール館、ミッフィーの家に行きました。

九日目に飛行機に乗り日本に帰国しました。八月十日に日本に着きオランダとの気温差を感じ、日本に帰って来たという実感が湧きました。

このホームステイを通して日本とは異なる言葉、文化に触れることができました。このたくさん学んだことを活かすために英語の勉強に力を入れます。そしてホストファミリー、私に関わってくださったすべての方に感謝したいと思います。



4



3

庭園で4人で写真を撮った！
(私は右から2番目)

周南市友好親善訪問団に参加して

高川学園高等学校 1年

杉村 由香子

Yukako Sugimura

私は、この周南市友好親善訪問団を通して、多くのことを学びました。特に学び感じることができたのは四つあります。

一つは、コミュニケーションの大切さです。私はたださえコミュニケーションをとるのが苦手です。だから今回はオランダ、知らない人達と行くということでもとても不安でした。最初はうまく他のホストファミリーとも話すことができず、ぐちゃぐちゃだったけど、仲良くなった友達のおかげでだんだんと話せました。次に外国に行ったら、自分から積極的に話しかけてみたいと思いました。

二つ目は、文化の違いです。オランダと日本の違いはとてもなくさんありました。私が一番驚いたのは、交差点です。オランダには日本のような交差点がなく、左の写真のような交差点で渋滞を防いでいました。そして、自転車での通学、通勤、買い物に行く人が多いことにもすごく驚きました。日本では車で移動をする人が多いのでそれが普通だと思っていたけど、オランダに行くと、その考えが違ったとわかりました。

三つ目は、英語力が少し身についたと感じたことです。

Gemeente

Delfzijl





最初は発音もあまりよくなく、何度も「？」という顔をされました。でも、十日間も外国で生の英語やオランダ語を聞いていると、最終日頃になると「？」という顔をされなくなり、ホストファミリーの人が何を言っているのかが何となくわかることができるようになりました。これを活かして、日本でも英語を頑張ろうと思います。

四つ目は、オランダの人達の優しさです。ホストファミリーと買い物に行った時は、日本人だと分かったのか会計の時に「小銭はある？見てあげようか？」と笑顔で言うてくれました。アムステルダムではみんなが手



を振ると、知らない人に手を振られているのに笑顔で手を振りかえてくれ、ユトレヒトではオルゴール博物館に行った時、自由行動で私が一人でオルゴールを見ていると、知らないおさんがオルゴールについて話してくれて、とても楽しい時間を過ごすことができました。そして何よりも一番優しくしてくれたのがホストファミリーの皆でした。車の中で日本の曲を流してくれ、ボートにも乗せてくれました。ボートでしたタイタニックは一生の宝物です。ホームステイの七日間、他のホストファミリーにも優しくそして親切にしてもらい、今度日本にオランダの人が来たら、もっと優しく、親切に接してあげたいと強く思いました。

まだまだ他にも感じたり学んだこともありました。このオランダでの十日間は私にとって一生の宝物です。私を笑顔で見送り、迎えてくれた家族、そして私がこうしてオランダに行けたのは市民の皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。私はこの十日間で学び感じたことを活かして、将来のために頑張りたいと思います。



1 みんなで鬼ごっこをしていたのが、楽しそうでした！ 2 デニー一家とホストファミリーでお買い物に行った時の写真です！

3 すごくきれいな庭でした！ 4 道路にみんなで落書きをしました！

平成 25 年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

周南市友好親善訪問団に参加して

山口県立新南陽高等学校 2年

橋本 佳奈

Kana Hashimoto

フローニンゲンにショッピングに行った時。
(私は真ん中)

私は友好親善訪問団に参加して、オランダの文化や伝統、日常生活など様々なことを学ぶことができました。

私は不安と楽しみな気持ちを半分ずつもって日本を出発しました。しかし、空港に着くと不安は薄くなり、私は沢山の外国の方や日本には無い建物を見てとても興奮しました。見るもの一つ一つに感動しました。

私たちはアムステルダムを視察した後、ホストファミリーの待つデルフザイルに行きました。そして、そこで面会しました。私のホストファミリーの一人は、去年日本に来ていて会ったことがあったけれど、とても緊張しました。初めて会ったばかりなのにみんなすごく優しくて親切だったので、不安も少しずつ消えていきました。この日の夕方は、一年に一回だけ行われるお祭りのような所に行きました。

デルフザイルでの二日目はグループに分かれて、ゲーム形式で教会や風車を探索しました。その後バーベキューをしてから、チームに分かれてオランダの遊びをしたのは楽しかったです。そして鬼ごっこやキャッチボールなどをして現地の人も少し会話することができました。

三日目はホストファミリープログラムで家



でバーベキューをしました。ファミリーの友達や知り合いの友達に来て、沢山のプレゼントを貰いました。私が話そうとした時、すごく真剣に聞いてくれたのでうれしかったです。

四日目はフローニンゲン州に行きました。ここでは昔の建物を見ました。昼食を食べた時の近くにあったビーチの水の色がすごく茶色で驚きました。

五日目はホストファミリープログラムでフローニンゲン州に買い物に行きました。人が沢山いてお店が沢山並んでいて都会でした。レストランで頼んだ食事の量がとても多くて驚きました。

六日目は市内美術館と農場に行きました。農場ではすごく臭いに驚いたけど、その農場で採れた牛乳は美味しかったです。そしてこの日はデルフザイルでの最後の日でお別れ会が行われました。六日間という短い間だったけれど、すごく充実した日々を送ることができました。ホストファミリーとのお別れは丁度打ち解けた頃だったので、とても寂しかったです。



私は異文化に触れて異国で生活するという、普通することのできない貴重な体験ができてとても良かったです。最初は自分の英語がきちんと伝わるかなとか不安が沢山ありました。しかし、私はホームステイや現地の人と交流して、伝えたいという強い気持ちがあれば、言葉が違っていても相手に伝わるということを学びました。

この体験を活かして、これからオランダについていろいろな人に伝えていきたいです。そして自分の将来につなげていきたいです。

1 お別れパーティーの時 2 ヌトレヒト
3 ホストファミリーのペット 4 家でのBBQ



平成 25 年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

周南市友好親善訪問団に参加して

山口県立新南陽高等学校 2 年

村中 由樹

Yuki Muranaka

中世のお祭りで。
(私は前列右から 2 番目)

私は、今回の周南市友好親善訪問団に参加することで、自分が成長できたと思います。

私が、この訪問団に応募した理由は、妹が別の企画で、オーストラリアにホームステイに行き、積極的になって帰ってきたことで、親に私も行って来いと言われたからです。

私は、オランダに行く前は、英語や現地の言葉は話せないし、外国人だらけの中に飛び込まなければならぬことが不安でした。しかし、いざオランダに行ってみると、現地の方々や、私達を受け入れてくださったホストファミリーの方々は温かく迎えてくださりとても安心しました。

また、私達のホストファミリーは、去年、周南市を姉妹都市交流プログラムで訪問した方が多いようで、皆で集まりシヨッピングやキャンドル作り、アザラシの保護施設に行ったりなど、様々な体験をさせていただきました。

その他にも、私のホストファミリーは、私が彼らの家で過ごしやすいようにと、気を遣って私の大好物などを用意してくれたりしてくださいました。

今回のホームステイは、一人一家庭だったので、最初は不安で早く終わってほしいなどと思ったり、一日ごとに訪問団員が集まる日が待ち遠しかったりしました。

しかし、今振り返ってみれば、ホームステイした期間はとても短いものだったと感じました。私が、ホームステイの環境にやっと慣れた途端のお別れ



1 庭園での記念写真

2 アザラシの保護施設で団員と

3 ホストファミリー達と庭園で



だったので、もう少しデルフザイル市に居たかったです。不可能だけど、もしもう一度この企画に参加して、デルフザイル市でホームステイできるなら、私はまた、今回私を受け入れてくれたホストファミリーの家に行きたいです。そして、私は今回よりもっと積極的に行動したいと思っています。

私が、デルフザイル市でホームステイをして学んだことは、やはり積極的になることが、どれだけ大切かということです。

私は、英語が上手に話せないで、下手に話し掛けて、ホストファミリーや現地の方々を困らせたり混乱させたりしてはいけないと思い、自分から話し掛けることがありませんでした。

しかし、自分から話し掛けていかないと、人のコミュニケーションは取れないし、自分が今何が必要なのかなどを、相手に知らせたりすることができないということ学びました。

平成 25 年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

ホストファミリーのフロート夫妻と息子さんです。日曜日にお隣のアッピングダム市へ連れて行ってくれました。仲の良い素敵なファミリーです。(私は左)

周南市友好親善訪問団に参加して



周南市役所企画総務部政策企画課

守重 一史

Kazufumi Morishige

私はこれまでいくつかの海外経験があり、その全てが有意義で、かつ私の人生に多大な影響を与えてくれたかけがえのないものとなりました。したがって、今回、友好親善訪問団団長のお話をいただいた時は、子育て経験のない私に、十五人もの団員達をまとめることができるのかという不安が多いにありましたが、それ以上に、団員達がこの貴重な経験を有意義なものにするための役に立ちたいという気持ちの方が強かったため、喜んでお受けさせていただきました。

しかしながら、団員達は私の心配をよそに、自発的に多くの人に話しかけ、ホームステイ先の家族はもちろん、他の家族とも仲良く交流し、デルフザイルの方々と充実した時間を過ごしていました。団員達の積極性の成果により、お別れの時は皆が別れを惜しむという感動的な場面が繰り広げられました。私は、団員達から「言葉は通じなくても気持ちは十分通じる」ということを逆に教えてもらい、感謝しています。

私の力不足な点もあり、ホストファミリーと上手く交流できなかったという団員もいるかもしれませんが、それでも、今回の経験は、今後の人生の大きな糧となるのは間違いないため、団員達にはデルフザイルでの思い出を大切にしてほしいです。また、お世話になったホストファミリーとは、メール等での継続的な交流を行ってほしいです。

団員達をサポートする中で、私自身も周南市の代表として、積極的な交流活動を行ってきました。デル



- 1 オランダ2日目、アムステルダム視察の時にアンネ・フランクの銅像の前にて。今年の8月はオランダで平和について学びました。
- 2 ドラルト湾クルージングの時に、姉妹都市交流財団のヨハネスさんと。風が強かったですが、気持ち良かったです。
- 3 エメ・フロート市長の家の近所の景色です。オランダならではの、レンガ造りの家が建ち並んでいました。
- 4 お別れ会での出し物披露の様子です。本番に強い団員達はバルーンアートを見事に完成させました。

フザイルの方々は、私の予想以上に親切かつ丁寧な私達を受け入れてくれました。この気持ちに応えるためには、感謝の気持ちを表現するのは勿論、私自身もデルフザイルの方々と自発的に交流する必要があると考え、滞在中は常に積極的な行動を心掛けました。

私の英語力は不十分ですが、英語のことは気にせず積極的に自分の意見を述べることで、私のホストファミリーであるエメ・フロート市長をはじめ多くの方々と有意義な交流ができ、充実した日々を送ることができました。そのため、別れの時は、私自身、感情的になり、涙をこらえるのに必死でした。今は、周南市とデルフザイル市との関係構築に微力ながら貢献できたことに喜びを感じています。

デルフザイルの方々は、私達に惜しみなく愛情を注いでくださいました。日本人と同様におもてなしができるデルフザイルの方々は本当に貴重な存在で、周南市は、素晴らしい都市と姉妹都市提携させていただいていると実感しました。この関係は、両市が過去二十三年間で構築した賜物ですが、非常に重要なもので、今後も決して絶やすべきではないと感じました。

来年は私達がおもてなしをする番です。今回受けた以上のお返しをしたいと思います。最後に、この訪問のためにスケジュール調整や段取りをしてくださった国際交流推進室の方々、本当に有難うございました。



☆☆ Pictures ☆☆

デルフザイル市訪問までの事前説明会や帰国後の報告会の様子を紹介します。



事前説明会の様子（6月～7月）



5月11日 募集説明会（市民館にて）



お別れ会の出し物決め



オランダ語レッスンの様子

7月27日（土）壮行会 市民館

壮行会には、訪問団員が在籍する学校関係者等も出席され、デルフザイル市訪問に向け、訪問団員一人ひとりが目標や決意を發表しました。



決意を發表する訪問団員



壮行会後の記念写真

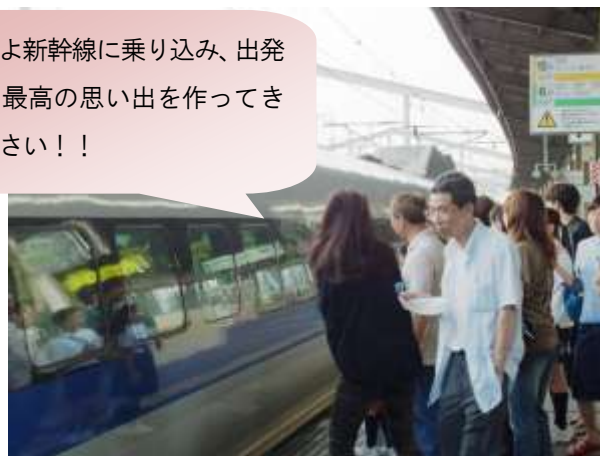
8月1日（木）出発

いよいよ出発の日です！

当日は出発にふさわしい天候に恵まれました。保護者の方に見送られ、周南市を出発しました。



いよいよ新幹線に乗り込み、出発です！最高の思い出を作ってきてください！！



8月10日（土）帰国



長旅お疲れ様でした！おかえりなさい！



あっという間に10日間が過ぎ、帰国の日を迎えました。徳山駅のホームへ降り立った訪問団員の皆さんは、出発時の緊張した雰囲気とは違い、笑顔があふれ、一回り大きく成長したように見られました。そして保護者の方と再会した瞬間、安堵の表情があふれていました。

9月15日（日）報告会 周南市文化会館



帰国後、報告会を開催しました。訪問団員一人ひとりが現地で撮影した写真を紹介しながら、滞在中、印象に残ったことや現地の人たちとの交流について報告しました。この訪問の学びや経験を、これからの人生に生かしてほしいと思います。そして、デルフザイル市の方や訪問団員同士、今後も末永く交流を続けていただきたいと思います。

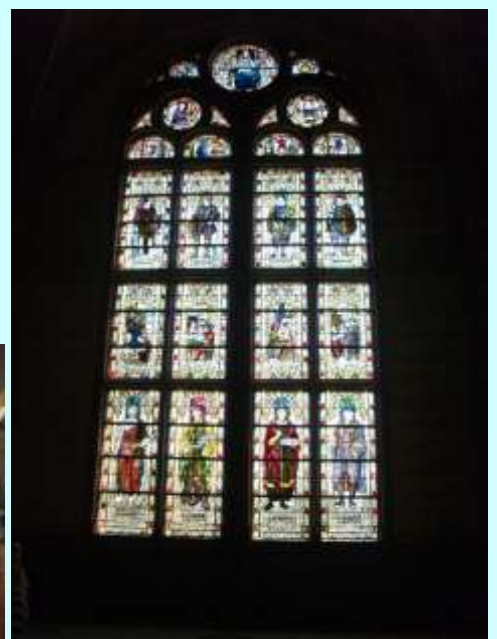


Delfzijl





Amsterdam



Utrecht







発行 周南市地域振興部
観光交流課 国際交流推進室

〒745-0045
山口県周南市徳山港町1-1
TEL(0834)22-8591
FAX(0834)22-8375
<http://www.city.shunan.lg.jp>